

株式会社 百五銀行

インフォメーション・ミーティング（2025 年度中間決算説明会）における主な質疑応答

【質問①】

Q. 資料 36 ページの政策保有株式について。2025 年度上期で既に 51 億円売却しているが、売却資金の活用について教えてほしい。また、今後、政策保有株式の売却を進めていくにあたり、売却資金を DX 投資、人的資本投資に活用すると記載があったが、もう少し詳しく教えてほしい。

A. 2025 年度上期の 51 億円に関しては、DX 投資に 10 億円、残りの部分は低利回り債の入替え売買に活用した。

DX 投資については、営業支援システムの刷新や A I・生成 A I の活用などに 70 億円、人的資本投資については、来年度に予定している人事制度改定などに 130 億円を充当していく予定。上振れて売却を行ったものについては、低利回り債の入替えや成長投資への充当など、有効な活用を検討する。

【質問②】

Q. 三重県経済の足元の状況、今後の資金需要について、将来に向けて感じているリスクがあれば教えてほしい。

A. 三重県は自動車産業等の製造業が多いため、米国関税の問題は非常に大きな影響があり、不透明感が強かった。足元では関税の方向性が見えたこともあり、地元としては一息ついていると感じている。景気判断としては、先行きに少し期待できるという状況よりは足踏みの状況。ただし、悪いという方向ではない。そういう意味では三重県経済は明るめ。

設備資金に関しては、控えていた設備投資を徐々に開始する動きがあり、計画が進んでいる。今後は期待ができるのかなという状況。また、企業倒産に関しては規模が小さいものが多く、倒産というよりは廃業に近い。リスクとしてはあまり取り込まなくてもよいと考えている。

【質問③】

Q. 期初から政策金利が変わっていない状態のなかで、通期予想では資金利益が大幅に期初計画から上振れる予想。有価証券利回りが非常に改善していることも踏まえ、要因を教えてほしい。

A. 中期経営計画は金利が横ばいで推移する前提で作成している。当行の場合、住宅ローンが多く、金利上昇分はプラスに反映する部分が多い。また、住宅ローンは金利反映にタイムラグもあり、上期よりも下期にかけて影響は大きくなる。有価証券の利回りに関しては特殊要因がある。子会社での事業承継ファンドにおいてエグジットがあり、金額が大きくなった。

【質問④】

Q. 株価が上がったことによって配当利回りだけを見ると他行比でやや見劣りする。配当性向を 2028 年度までに 40%に引き上げる計画であるが、早めに 40%に持っていく考えはあるか。

A. 配当に関しては、一気に上げたものの利益が落ちたら減配するようなことはしたくない。若干スピードが遅いと思われるかもしれないが、減配をしないように動きたい。

【質問⑤】

Q. 今後の資本政策、貸出方針について。資本フロアの影響が他行と比べてかなり大きい。そういった意味では、RORA を無視したリスクをもっととってよいように見える。もう少し積極的なリスクテイクを個人分野以外で何かできないか。

A. 貸出の方針に関しては、地元の中堅中小企業向け貸出は積極的にやっていきたいと考えているが、資金需要との関係もあり、まだまだ一気に伸びるかと言われるとそこまではっていない。

それ以外の部分としては、投資金融部というストラクチャードファイナンスなどを専門的に取り扱う部署を作っており、そちらの部分でのリスクテイクは考えていきたい。

【質問⑥】

Q. 法人預金残高について、2025 年度上期はかなり伸びている。現在どういった戦略を打たれ、今後さらにこのペースで伸びていくことが期待できるのか。

A. これまでは預り資産を営業してきた先に対して、預金のアプローチも行っている。足元では預金の重要性を再認識して注力したことで伸長した。ただし、今後も前期のような調子で伸びるかといえは慎重にみている。

【質問⑦】

Q. 政策保有株式の売却見通しについて。説明のなかでは、もう少し加速していきたいとの説明があったが、足元でかなり時価が上がっている状況にあるかと思う。こういった相場が非常に強いなかで、売却の見通しを引き上げる可能性はあるか。

A. 確かに株価が上がってきており、非常に難しい状況にはある。ただし、当行が売却を考えるときは、基本的には他の投資と比べて、新たな投資そのものが果たして価値があるのかどうかを見て売却している。株価だけを見て売却する方針ではない。総合的に見たうえで判断したい。

【質問⑧】

- Q. 預金について。愛知県、三重県を中心に東海圏の銀行は非常に貸出金も預金も伸びているように思う。預金についても伸びているのは、素直に貸出金が伸びている分、しっかりその資金が東海圏で循環しているという理解でよいのか。
- A. 大方そのように理解している。銀行によって多少伸び方が違っているのは、金利の付け方の問題だと思うが、全体としては東海地区に関しては預金、貸出金も堅調だと考えている。

【質問⑨】

- Q. 資料 19 ページに預り資産営業の強化があるが、一方で資料 22 ページは、ライフイベントに応じた預金増強の話もある。これは併進するのは難しいように思うが、営業店に対してどのような指示が出されているのか。
- A. フィデューシャリー・デューティーの観点も重要であると思っている。お客さまと対話しながら、ニーズに合わせて提案するよう指示している。どちらを提案しても営業担当にとっては不利がないような形で評価するよう考えている。お客さま中心で提案を行うよう指示している。

【質問⑩】

- Q. 政策保有株式に関して、中期経営計画にある 200 億円の売却のうち、70 億円を DX 投資に使うという説明があったが、この投資の中身はどのようなものが中心となるのか。
- A. 営業支援システム系、事務効率化、AI 関連、ペーパーレス基盤の構築を中心に考えている。

【質問⑪】

- Q. 債券の今後の入れ替えについて。過去に比べて含み損が大きいわけではないが、足元で長期金利が上がっているため、これからも積極的に債券の入れ替えを進めていくのか。その場合、売却損は株式益でカバーするのか、それとも利ざやを使って処理していくのか。
- A. 債券を入れ替えることによって利息分が計画よりも上がるため、債券売却損分のカバーは考慮する。ただし、その分だけでは足りないと考えている。不足分は政策保有株式の売却分を充当することが必要になってくる。

【質問⑫】

- Q. 株の含み益が大きいため、純資産ベースで考えると同じ規模の銀行に比べて ROE や財務レバレッジがどうしても低めに見える。経営上は株の含み益を含めて ROE や財務レバレッジを計測しているのか。もしくは、株の含み益は変動するので除いたベースで経営判断をしているのか。
- A. 銀行の決算上は簿価を下回ったときの償却リスクになってくるため、リスクとしては、簿価ベースで考えている。経営判断としては状況によって時価ベースで見たり、簿価ベースで見たりしている。

【質問⑬】

Q. 資料 17 ページの法人ソリューション手数料について、下期は約 17 億円の計画だが、どのような手数料が伸びることを想定しているのか。

A. 主に M&A 手数料、ストラクチャードファイナンス手数料などを見込んでいる。

【質問⑭】

Q. 資料 43 ページについて、個人預金が三重県、愛知県でも伸び悩んでいるのはなぜか。

A. ネット銀行の攻勢も大きく、一部流出している。我々としては金利だけで競合するのではなく、給与振込や年金指定などを増やし、粘着性のある預金の獲得を図りたい。

【質問⑮】

Q. 地銀の再編・統合に関する行動への考えを教えてください。

A. 再編や統合に関して全て否定するという考え方はないが、コスト面や時間的な部分を考慮すれば慎重な検討が必要だろうと考えている。もちろん当行単独でできることもたくさんある。具体的な話はないが、すべてを否定して何も考えないというのはなく、さまざまなことを想定しながらシミュレーションしている。

【質問⑯】

Q. 2025 年の株主総会での頭取信任率が他の地銀と比較しても低下している点に関して、どのように考えているか。

A. 個人株主からの賛成率がほぼ 100%である一方で、機関投資家による判断の影響が大きく、賛成率の低下につながったと認識している。要因としては、それぞれの議決権行使基準によると思うが、取締役の構成、政策保有株式の問題、R O E の問題などさまざまであると考えている。機関投資家が求める水準と乖離があったと推察しており、引き続き各施策への挑戦を通じて、経済価値、社会価値の双方を創出することで、企業価値を向上させていきたい。

【質問⑰】

Q. 政策保有株式に関して、収益性を重視するとのことであったが、銘柄集中リスクについてどのように考えているか。

A. 時価変動リスクは大きいかもしれないが、そういった銘柄の簿価から考えたときの減損リスクという意味合いではそれほど大きくない。株式の場合、市場の株の変動リスクだけでなく、その株式の発行体が地域経済にどのような影響を及ぼしているのか、その会社の地域への影響力というもの勘案しなければならないと考えている。

以上